

【中谷副社長に聞く】

## ものづくりにおける イノベーションの加速

イノベーションにどのように取り組んでいますか？

当社では3つの軸でイノベーションに取り組んでいます。一つは顧客に直接価値を提供するイノベーションで、新製品の創出など顧客に提供する「モノ」の変革を行う「プロダクトイノベーション」です。最近では、これに加えて顧客の課題を解決するサービスを提供する「コト」の変革を行う「ソリューションイノベーション」に注力しています。

もう一つは、設計・製造などの業務の過程の変革を行う「プロセスイノベーション」です。これにより、新製品・新サービスの開発を加速させることができ、顧客に間接的に価値を提供することになります。プロセスイノベーションは、外部からその成果が見えにくく黒子的な活動ですが、企業の持続的成長を支える重要な役割を担っています。

プロセスイノベーションの取組みを教えてください

当社のプロセスイノベーションの取組みは、バリューチェーン全体にわたる業務過程の変革を追求しており、その基本は、TQM (Total Quality Management, 総合的品質管理) 推進活動の全社展開です。経営方針を浸透させ、全社一丸で目標達成目指して活動する環境を整備するとともに、日常の業務は標準化してPDCAサイクルにより常に改善することで経営品質を高めています。このうち、開発・設計過程であるエンジニアリングチェーンでは、K-DPX (Kawasaki Design Process Transformation) 推進活動と名付けて変革を進めており、開発・設計プロセスの標準化や高度化を進めています。また、製造過程であるサプライチェーンでは、従来からKPS (Kawasaki Production System) 推進活動が続けており、作業工数の低減や仕掛在庫の削減などの生産改革運動を進めています。

特に最近では、新興国の発展などで世界市場の規模が拡大しているとともに、市場環境の変化も激しくなっており、イノベーションの活動もスピードアップして、競合他社との競争を勝ち抜いていくことが急務になっています。



中谷 浩 代表取締役副社長

プロセスイノベーションを加速するには

当社ではDX (Digital Transformation) 戦略の取組みの中で、「お客様にとってのDX」、「事業にとってのDX」、「従業員にとってのDX」を進めており、このうち「事業にとってのDX」では、デジタル技術の積極活用によりプロセスイノベーションの加速に取り組んでいます。これによりバリューチェーンの整流化や全体最適化および各業務プロセスの高度化などを目指しています。

製造現場のものづくりの分野では、各種センサーや電子タグ、ロボットや自動機器、AI (人工知能) によるビッグデータ処理、全工程をリアルタイムで最適化するCPS (Cyber Physical System) の実現、高速通信 (ローカル5Gなど)、クラウドシステム、XR技術による可視化などのデジタル技術を導入することで、従来の現場改善活動のPDCAサイクルを正確・高速・可視的に回すための技術開発に取り組んでいます。これにより、当社工場を含めたサプライチェーン全体の運営最適化、革新的な生産手法の導出による飛躍的な生産性の向上、多種多様な人々が働きやすい労働環境の実現などを目指しています。

最後に

当社では2030年に目指す姿として「グループビジョン2030」を制定し、今後の社会課題に対して、その解決を実現するソリューションを提供しグローバルに貢献することを目指しています。その実現の一環として、デジタル技術を活用してもものづくりのプロセスイノベーションを実現し、ものづくりを革新的に変革していきます。